

第2回 川上村統合小学校建設委員会 議事録要旨

日時：令和3年5月27日（木）15：00～16：20

場所：川上村文化センター からまつ広場

参加者：

村議会社会文教委員 中嶋知明、林公上、大西たま子、由井元成、渡邊光

行政連絡員：嶋崎勝栄、杉原茂寿

主任児童委員：油井いずみ、鷹野智里

若妻会長：林靖葉 教育委員教育長職務代理：古原栄夫

教育委員：油井たまき、由井小百合、油井敏弘 第一小学校校長：神田博幸

第二小学校校長：佐々木哲也 中学校校長：小林俊男

地域連携コーディネーター：井出和夫 第一小学校PTA会長：横森茂

第二小学校PTA会長：伊藤正臣 中学校PTA会長：林幸広

保育園保護者会長：油井彩悦 村民公募委員：林博康、小林楓

理事者：村長 由井明彦 副村長 中島修 教育長 藤原克朗

事務局：中嶋豊、井出知子、若月彰一、原岳司、宮田雅和、藤原将武、中島啓隆

（欠席者）井出俊司郎

（敬称略）

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・資料を見ながら審議をお願いしたい。

3 議事

（1）スケジュールについて

事務局 中島：

資料1について説明

- ・「川上村統合小学校建設基本計画（素案）」を基に協議。
- ・視察、パブリックコメントの実施（新型コロナウイルスの状況による）。
- ・12月の策定を目指す。
- ・一部委員にはプロポーザルまで協力いただく。

（2）用語集（建設委員会関係）について

事務局 若月：

資料2について説明（抜粋）

- ・川上村では施設併設型の小中一貫校を目指す。
- ・GIGAスクール構想により、個別最適化な学びも有効に機能していく。
- ・交通安全確保のため動線を検討する。

(3) 経過説明について

事務局 若月：

資料3について説明

- ・小学校を統合し、新たな学校を建設する場合、小中一貫校として設置するケースが多い。
- ・小中一貫校は、学力向上に向けた小中の連携、生徒指導の充実をはじめ、中1ギャップの解消にもつながる。
- ・小中一貫校で子どもに力がつく、子ども同士の関係が向上する。

事務局藤原（将）：

資料3-2について説明

既存の小学校の敷地に統合しない理由

- ・学校ありかた検討委員会によるアンケート結果の尊重（中学校付近に新校舎を建設してほしい）。

既存の小学校敷地に統合した場合

- ・川上村の目指す小中一貫教育ができない。
- ・学校行事や災害時の引き渡し時、駐車場不足が解消できない。
- ・既存の庁舎は老朽化が著しい。
- ・新たな敷地に統合小学校を建設する場合は、補助金の対象にならない。

○質疑応答

委員：7ページ（5）バス通学について、今の表現だと徒歩通学の危険性を把握していながら一部生徒に徒歩通学をさせていると捉えられかねないため、表現は検討した方がよいのでは。

事務局 若月：すべての子どもたちの安全な通学について、基本計画の中で示したい。

(4) 川上村統合小学校建設基本計画（素案）について

事務局 中島：

資料4-1、資料4-2について説明

第3章1（1）子どもたちが快適な生活空間で安心して学校生活を送るために、

- ・天井や外壁など非構造部材を含め耐震性を有した施設を目指す。
- ・すべての人が安全に移動、避難できるバリアフリーに配慮した施設を目指す。
- ・不審者の侵入防止や戸締りなど、セキュリティ管理に配慮した施設を目指す。
- ・学校職員が、児童の様子を確認、部外者の出入りを確認できる施設配置を目指す。
- ・児童の動線を確認し、児童と外部からの車両が交錯しないよう安全対策を徹底する。

同（2）確かな学力を保証するために、

- ・多目的教室やワークスペースの充実を目指す。

- ・ ICT 教育をはじめ、変化していく教育に対応できる環境づくりを目指す。
- ・ 少人数学習室の配置や多目的室の利用など、子どもたちが余裕をもって学べる空間を確保する。

同（３）豊かな心・健やかな体を育むために、

- ・ 休み時間に子どもたちが自由に過ごせるような、友だち同士の交流の場を充実させる。
- ・ すべての人が快適に利用できる、使い方が簡単で楽に使える設計にする。
- ・ 自然環境に融合した統合小学校にする。

同（４）学校種間の交流が円滑に行うために、

- ・ 小中併設型の小中一貫校にする。
- ・ 小中の連絡通路の設置や、小中学生の交流スペース確保を工夫する。

同（５）地域の交流・文化拠点となるために、

- ・ 地域の方が気軽に学校と交流できるような施設を目指す。

同（６）地域の防災拠点となるために、

- ・ 有事の際に避難所機能を果たす施設を目指す。

同（７）柔軟性に優れた学校にするために、

- ・ 児童数や教室数の増減に対応できる柔軟性のある教室配置を目指す。
- ・ 教育相談だけでなく、心の安定を図る場として保健室や相談室を活用する。
- ・ 読書活動を充実させ、本への親しみをさらに高める。

第 3 章 4 施設・設備（基本的な方針）について各種教室の必要性について説明。

同 5（１）統合小学校について、

- ・ 地域住民との合意形成を図りながら事業を推進する。
- ・ 川上第一、第二小学校間における保護者や地域の連携を促し、開かれた学校づくりを目指す。
- ・ 児童クラブ等放課後の児童対応については、総合的に検討する。
- ・ 校名、校章、校歌の選定方法等について検討する。
- ・ PTA、通学方法、教育課程について検討する。

同（２）小中学校の連携について、

- ・ 小中の児童・生徒及び教職員の交流が深まる教育活動を計画する。主に学校にお願いする。
- ・ 保護者による PTA 組織作りを中心に、小中の保護者が連携、学校運営を高める。

同6 通学路・通学方法について説明

○質疑応答

委員：9点。1点目、道路の廃線に伴い、周回道路が必要にならないか。2点目、駐車場100台では足りないのではないか。3点目、この点について教職員でも検討する時間をいただきたい。4点目、校舎の向きをどうするか。5点目、教室の広さは余裕ある広さにしてほしい。6点目、バス通学は何キロからになるのか。7点目、保健室、相談室の配置について、隣接が好ましくない場合もあるため、検討してほしい。8点目、地域の方が使える部屋が欲しい。9点目、音楽室の広さや器具庫を検討してもらいたい。

中嶋教育振興課長：今回の資料の中では広さ等示していないため、次の段階までに検討し、示していきたい。

委員：グラウンドについて、小学校と中学校でどう区分けするか。多目的室について、多目的の使い方について検討する必要があるのでは。また、図書館の配置について、低学年の子どもにとっては高層階よりは1階設置がよいのでは。

委員：社会活動の出入り口の設置など、小学校の施設の中で生涯スポーツを考えることもできるのではないか。

中嶋委員長：貴重な意見につき、今後検討を進めたい。

委員：ボランティアの方が学校と情報交換できるような、活用できるスペースを検討していただきたい。

中嶋委員長：建設予定地の国有地について、状況は。

事務局藤原（将）：県で事務処理を進めている。約2年かかるスピード感は変わらない。

委員：災害に強いことが親として一番重要。場所的なデメリットを埋めるような校舎の構造にしてもらいたい。ヘリポートなど、災害でも安心といえる拠点であってほしい。

委員：18ページ5について、小学校に児童クラブを併設するという意味か。

中嶋教育振興課長：保健福祉課での検討となっているが、現在児童クラブの扱いについて検討を進めているところ。

委員：地域のボランティアを活用する意味で、児童クラブとコミュニティスクールは連携してやっていければと思う。

委員：通学について、二小区の生徒はそれぞれのバス停から学校前のロータリーまで来ている。樋澤野辺山の生徒は、朝は定時バス。帰りは迎えとなっている。

中嶋委員長：通学に関して、検討材料としたい。

委員：二つの小学校の伝統をどう新しい小学校に継承するか。また、千曲川とのかかわり、活動を考えていただきたい。

中嶋委員長：教室の広さについて、決まりはあるのか。

中嶋教育振興課長：次の段階までに提示したい。

(5) その他

事務局 中島：

- ・会議終了後の現地視察について、天気の都合により中学校内部からの視察としたい。
- ・第3回委員会は6月中旬を予定。基本計画の素案について、次回委員会で意見をいただきたい。

委員：建設に関して専門家のメンバー加入を検討してはいかがか。

中嶋教育振興課長：検討する。

4 閉会